



美容外科と形成外科をつなぐ

高田 章好

Akiyoshi Takada, M.D., Ph.D.

大阪大学大学院 医学系研究科

Osaka University Graduate School of Medicine

1980年 近畿大学医学部医学科卒業・同医学部附属病院臨床研修医

1981年 大阪大学医学部附属病院皮膚科医員

1990年 大阪警察病院形成外科医長

1990年 大阪大学医学部講師

1996年 大阪府立母子保健総合医療センター形成外科部長

1997年 ナグモクリニック大阪院長

2002年 城本クリニック顧問

2010年 大阪大学大学院医学系研究科 美容医療学講座教授

2013年 大阪大学大学院医学系研究科 形成外科学講座招聘教授

2015年 大阪大学大学院医学系研究科 抗体美容医科学講座特任教授

■抄録

形成外科を学べばそのまま美容外科が出来るわけではないし、その逆もありません。形成外科は体表の治療をおもな守備範囲としています。先天性の奇形や外傷、ガン手術後の変形の治療などです。最近では乳癌切除後の乳房再建が増えていきます。この形成外科で用いられる技術は美容外科の分野にも応用されています。

美容外科は人体の機能上の欠損や変形の治療ではなく、美意識に基づく見た目の改善を得るもので、共通しているのは多くは体表の部位を治療するという点です。

では優れた形成外科医は優れた美容外科医になれるのでしょうか。

乳房再建は形成外科の手術ですが、機能の再建はなく純粹に整容的な手術です。また乳房再建と同様に形成外科領域で増えている治療に眼瞼下垂があります。これは機能の再建が主ですが患者さんのゴールの多くは見た目です。すなわち形成外科であれ、美的センスとそれをかなえられる技術があって、はじめて患者さんに満足してもらえる結果が得られることを認識しなければなりません。

今後は領域を超えて技術とセンスの両方を兼ね備えた医師が増えていくことを期待しています。

memo